

宝示戸亮二

Ryoji Hojito



ピアニスト／作曲家。1959年栃木県出身。'74年より札幌市在住。北海道大学理学部数学科卒。その活動当初は通常のピアノ演奏を行っていたが、'90年頃よりピアノ内部にさまざまな小物類(空き缶、空き缶、発泡スチロール、木片、玩具、パイプレーターなど)を持ち込んだ独自の演奏方法に移行、ピアノの響きの可能性の拡張に挑み続けている。表現者として通常の奏法に感じた限界と、「いかに自由に自分を自分らしく表現できるか」という命題を、同時かつ瞬時に解決したその過激ともいえる特異なサウンド・アプローチは、ピアノの持つ既成概念を軽々と解体し、宝示戸の音楽は誰にも似ていないオリジナリティを獲得した。時にノイズな面も見せる多彩な音色と、それとは裏腹に位置するような抒情的な旋律、思わず漏れ出るようなヴォイスとが相俟った彼独特の表現には、根強いファンが多い。普段は札幌や東京を活動の拠点に、主に即興のソロ・ピアノやセッションを行っている。'93年、ニコライ・ドミトリーエフの招聘によるロシア公演(モスクワとノボシビルスク)で絶賛を浴び、その後は毎年、ロシア、ドイツ、フィンランド、リトアニアなど、ヨーロッパ各地のフェスティバルに出演している。日本においても、「Now Music Festival Sapporo」('86~'97年のうち6回出演)、「Festival Beyond Innocence '96」(神戸)、「第二回ピアノ舞踏会」('07年・東京)などに出演している。

<http://www5.famille.ne.jp/~kanji/index.html>

梅津和時

Kazutoki Umezu



1970年代前半に渡米、ニューヨークのロフトジャズ・シーンで活躍した後には帰国、生活向上委員会大管弦楽団で一世を風靡した。その後、ドクトル梅津バンド(D.U.B.)と並行してRCサクセションのサポート、イアン・デューリー & ブロックヘッズへの参加をはじめ、国内外の多様なミュージシャンと無数の共演を果たし、その唯一無二の音色とともに存在感を示し続けてきた。'90年代以降、ジャクシャイン、ベツニ・ナンモクレスマーなどのリーダーバンドを経て、現在は、KIKI BAND、こまっちゃクレズマ、新大久保ジェントルメンを率いる。また20年近く続けている無差別ノンジャンル・セッション「梅津和時・大仕事」シリーズや、「[我に撃つ用意あり]」「新・悲しきヒットマン」]河童」などの映画音楽、さらにエッセイ執筆、ラジオ番組のパーソナリティ、CMのナレーションなど、その活動範囲はジャズ・ミュージシャンの枠を大きく越え、還暦を過ぎる現在も、さらに精力的に活動中である。

<http://www.k3.dion.ne.jp/~u-shi/>



山口とも

Tomo Yamaguchi

日本廃品打楽器協会会長／軽金属・不要品打楽器奏者／なんちゃって写真家。祖父・山口保治は「かわいい魚屋さん」ないしょないしょなど、数々の童謡を創った作曲家。父・山口浩一「新日本フィルハーモニー／ティンパニー名譽首席奏者」の長男として東京に生まれる。つのだ☆ひろのアシスタントとして音楽の世界に入り、1980年に「つのだ☆ひろとJAP'S GAP'S」のメンバーとしてデビュー。解散後はフリーのパーカッショニストとして中山美穂、今井美樹、平井堅、石井竜也、サーカスなど、数々のアーティストのツアーやレコーディングに参加。'95年の音楽劇「銀河鉄道の夜」をきっかけに、廃品から様々なオリジナル楽器を作るようになる。おおたか静流とのスピリチュアルなライブ・パフォーマンスやロックの中山らび、アヴァンギャルド・ジャズの三宅純とのコラボレーションなど活動の場を広げ、2004年には日本楽芸協会の福岡詩二氏から「打楽器コメディアン」の称号をもらい、浅草東洋館に出演、好評を博している。'03年4月から'05年3月までNHK教育テレビ「ドレミテレビ」に「ともとも」の愛称でレギュラー出演していた。ノーマルなパーカッション類の他、音の出そうな燃えないゴミを日夜収集・加工しては楽器を作っている。ゴミに命を吹き込み、もう一度この世での使命を全うさせている。「誰が読んでもともとも音楽は出来る」をモットーに奮進中！

<http://www.terra.dti.ne.jp/tomoyama>

宝示戸亮二

piano, small instruments, voice, etc.

山口とも

percussion, voice, etc.

ゲスト 梅津和時

saxophones, clarinets